

吸水調整材がタイル接着性に与える影響

高見錦一

Influence of Concrete Water Absorption Controlling Material
on Adhesion of Setting Tiles

Kinichi Takami

背景・目的

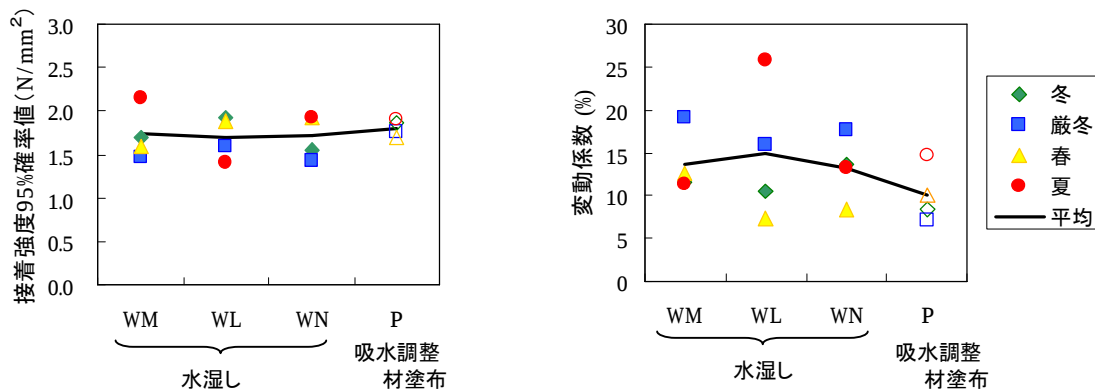
コンクリート面にタイルを直接張付ける場合には、コンクリート下地の吸水調整を適切に行うことが重要である。そのため最近ではコンクリート面に、吸水調整材を塗布することが多くなっているが、吸水調整材を使わないで水湿しだけを行っている場合もある。吸水調整材の使用の是非を検討するために、水湿しと吸水調整材での下地吸水調整が、タイル接着力にどのような影響を与えるかを確認するために実験を行った。

概要

下地コンクリートの吸水調整方法を水湿しと吸水調整材の塗布とした場合のタイル接着性について検討するために引張り接着試験を各季節について行った。また、吸水調整材塗布の有無による軸ひずみ追従性試験を行った。

引張り接着力試験実験水準

記号	WM	WL	WN	P
水準 (計画含水率)	水湿し 多 (5wet%)	水湿し 少 (4wet%)	水湿し 無し	吸水調整 材塗布



タイル引張り接着力試験結果

結論

水湿しでは、特に夏季においてコンクリート表面含水率を適正な値に保つことが難しい。また、タイル引張り試験では、接着強度にはあまり差は無いが、変動係数は吸水調整材を塗布したほうが小さかった。さらに軸ひずみ追従性試験でも吸水調整材を塗布した方がバラツキが小さかった。このことから、タイル張りにおける吸水調整方法としては、水湿しより吸水調整材を適正に塗布する方が、施工品質が安定し、バラツキが小さくなることを確認した。